ニュース

反日民族主義に反対する初めてのソウル街頭集会

西岡　力（歴史認識問題研究会会長）

● 6月5日光化門に50人が結集

6月5日午後6時、韓国ソウルの中心地である光化門広場で、「慰安婦像・労務動員労働者像の設置反対集会」が開催された。主催者の一人である李宇衍（ウヨン）博士は開会の挨拶で「今日、ソウルで初めて反日民族主義に反対する集会を我が韓国の歴史で初めて開くにいたったという事実を大変誇らしく思います」と高らかに語った。

集会は約二時間、午後8時まで続いた。参加者は集会開始時点では20人くらいだったが、最後には50人程度になった。主催者発表の数字は公表されなかったが、集会終了後にもたれた夕食会には35人が参加したことから、全体参加者は50人くらいだと主催者が私に話している。

主催者は次の４団体、「慰安婦と労務動員労働者銅像設置に反対する会」「反日民族主義に反対する会」「韓国近現代史研究会」「国史教科書研究所」だった。その中心人物が、朝鮮近現代史を専攻する気鋭の歴史学者である李宇衍博士だ。李博士は1966年生まれで、ソウル大学名誉教授李栄薫の弟子で、現在、李栄薫教授が所長をしている落星台経済研究所の研究委員だ。

実は私は5月末、訪韓した際、旧知の李宇衍博士と夕食をともにしながら３時間以上、話し込んできた。その席で、5日の集会について詳しく聞くことができた。また、李博士が学生時代、マルクス主義を深く学び左派運動に参加していたことや、韓国経済史を学びながらそこから抜け出して歴史の真実を追究する学徒となり、その立場から韓国の事実を無視した反日民族主義に公然と反旗を翻す実践活動を始めるようになるまでのいきさつと心情などについても話し込んだ。

● 左派運動家が司会

私は日程の調整がつかず、残念ながら5日の集会に参加はできなかったが、YouTubeにアップされた動画で２時間の集会のすべてを閲覧し、そこで配られたパンフレットを李博士に送ってもらい、メールで李博士から集会の参加者や雰囲気などについての説明もきいた。その報告をしたい。

司会者として著名な左派運動家の朱ドンシク氏が開会を宣言した。著名な歌手が民族歌曲を独唱し、その後、愛国歌（韓国の国歌）斉唱があった。そして最初に、この日の集会が開かれるまでの経緯と主催４団体の概要について、主催者を代表して李博士が語った。それを、紹介しよう。

● 集会主催者①「慰安婦と労務動員労働者銅像設置に反対する会」

〈この集会が開催されるまでには若干の経緯がありました。まず、ＳＮＳにおける小さな集まりから始まりました。

2017年民労総、韓労総、挺対協、民族問題研究所が、日帝強制徴用労働者像建立推進委員会をつくり、強制徴用労働者像を全国に設置すると発表しました。

これはもう一つの慰安婦像になるだろうと、私たちは憂慮しました。そこで私たちはＳＮＳ、フェイスブックで「慰安婦と労務動員労働者銅像設置に反対する会」をつくりました。

その後、2017年8月にソウル龍山駅前にはじめて労働者銅像が設置されました。これに反対して私たち「銅像に反対する会」は声明を出す作業から始めました。

また、2017年10月には慶尚南道で労働者像の建設のための大討論会を、民労総が中心として開催すると発表されました。これに対して私たちはいっしょに討論することを要求しました。最初にはその要求が受け入れられましたが、その後、拒否されました。

● 集会主催者②「反日民族主義に反対する会」

そして、よくご承知の通り、2018年10月31日に問題となっている韓国大法院［最高裁判所］の新日鐵住金に対する損害賠償判決が出ました。私たちはそれを十分に予想しており、それに対する糾弾文を準備し、抗議声明をすぐに発表することができました。

しかし、現文在寅政権になり反日が一つの外交政策かつ内政政策になったので、銅像に反対することだけでは足りないと判断することになりました。

そこで実現できるかどうかはわかりませんでしたが、「反日民族主義に反対する会」をつくろうとネットでよびかけたところ、わずか１週間で300人あまりが参加しました。先ほどお話しした「銅像に反対する会」は会員が現在700人あまり、そしてこの集会をする時点で「反日民族主義に反対する会」は千人あまりに至りました。

● 経緯③「韓国近現代史研究会」と「国史教科書研究所」

また、この集会を一緒に主催している「韓国近現代史研究会」は2016年に結成されており、韓国近現代史について研究をしており、青年たちそして一般市民たちを対象として近現代史と人文学を学習する努力をしています。

最後に、「国史教科書研究所」についてですが、韓国の教科書に多くの問題があります。皆さんが今お持ちのパンフレットにある通り、小学校の教科書に日本人の写真を掲載して、朝鮮人だと書いているのが実情です。このような問題を解決しようと2018年に「国史教科書研究所」がつくられ、その後、教科書の修正と改訂のために努力しています。

● 5月10日釜山で労働者像に反対する集会

この四つの団体がオフライン、すなわちネットを超えて現場ではじめて集まったのが、

5月10日釜山草梁洞にある［日本総領事館近くの］鄭撥将軍の前に臨時に保管されている労働者像、「強制徴用労働者像」と呼ばれて歴史を歪曲する銅像の前で、設置に反対する集会を最初に開催しました。

そのあと今日に至り、ソウルで初めて反日民族主義に反対する集会を我が韓国の歴史で初めて開くにいたったという事実を、大変誇らしく思います。

● 反日民族主義の打破が目標

私たちは慰安婦像と労務動員労働者像設置に反対し、既存の銅像を撤去するために、またこの韓国社会に蔓延している前近代的で反知性的であり、ひどく感情的な反日民族主義、反日種族主義を打破するために、これから全国の市民団体と連帯し、全国民的運動を展開するという固い抱負を、この席で明らかにするものです。〉

● 労働者像設置４団体

労働者像設置の主体としてここで名前が挙がった４団体のうち、前者２つは韓国における２大労働組合ナショナルセンターだ。

民労総（全国民主労働組合総連盟）は1995年、韓労総の穏健路線に反発する過激な労組が集まり非合法のまま発足し、1999年金大中政権時代に合法化された。朴槿恵政権を倒したろうそくデモでは、民労総が全国から組織的動員をかけていた。

韓労総（韓国労働組合総連盟）は民労総が発足する前から公認されていたナショナルセンターで、労使協調路線をとっていたが、最近は民労総の影響を受け過激化しつつある。

後者の２つは反日運動団体だ。挺対協（韓国挺身隊問題対策協議会）は1990年に発足以来、慰安婦問題での日本側の取り組みにことごとく反対してきたことで知られる。ソウルの日本大使館前の慰安婦像を設置した団体でもある。2018年に「日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯」（正義連）と改称している。

民族問題研究所は1991年に設立された民間研究所で、創設以来「親日派」の責任追求に取り組み、親日人名辞典を編纂し、最近では日本統治時代に作られた校歌を、親日派の作ったものだから廃止せよと、歴史ある高校などに運動している。この研究所こそが、親日派清算がなされなかったから韓国の現代史は汚れているとする、「反韓史観」と反日民族主義を韓国社会に拡散する拠点だ。この４団体のうち、民労総が労働者像設置の中核を担っている。

● 集会声明朗読

つづいて、「銅像に反対する会」と「反日民族主義に反対する会」の中心メンバーの一人である金基洙弁護士が声明文を朗読した。金弁護士は、朴槿恵政権が倒され文在寅政権が発足するまでは政治に関心がなかったが、文在寅政権が行っている栄光の韓国現代史を全面的に否定する政策を見て、このままでは韓国の自由民主主義が壊されてしまうという強い危機感を持って反文在寅の保守派の運動に参加した、と私に語った。李博士とは最近知

り合ったというのだが、二人の強い同志関係がこの日の集会を実現させたと言える。
金弁護士は声明朗読の前に一言、自分の考えを述べた。

〈歴史を失った民族には未来がないと言います。歴史を歪曲する民族にはどのような未来があるでしょうか。真実の光は小さく、星の光のように遠くにありますが、私たちの目にはその真実がはっきり見えるために、今日、ここに立ちました。我が国の国民の皆様に歴史の真実を正しくお知らせしようと「反日民族主義に反対する会」が結成され、今日、４団体が合同でこの集会を開催することになりました。私たち４団体の、慰安婦像と労務動員労働者像設置に反対する趣旨を声明にしました。〉

そして、以下の声明を力強い声で読み上げた。その全訳を掲載する。

慰安婦像と労働者像設置に反対する6月5日ソウル集会声明

歴史歪曲、外交惨事の労働者像設置に反対する

歴史の流れを逆に戻そうとする無知と狂気がこの国をおおっている。いわゆる慰安婦少女像と労務動員労働者像を日本大使館や領事館近くなど全国各地に立てようとする試みは、決して進歩と民主、労働者の名によって正当化されない。
慰安婦少女像と労働者像は歴史認識を歪曲し、もっとも近い友邦国との大切な親善関係を根底から壊そうという悪魔的企てだ。我々は理性と知性の力を信じる民主進歩的市民たちの意志を集め、労働者像設置に反対する。

1　労働者像設置は歴史歪曲だ

日帝時代に日本に働きに行った我々の祖先たちは、奴隷のような強制労働に苦しんだというのは徹底した歪曲だ。進歩を売り物にする輩らは、別の事故で撮られた日本人たちの写真を朝鮮人たちの写真（**訳注１**）として偽造し、映画の一場面（**同２**）を実際の写真だと主張するなど、でたらめを通じて反日感情をあおってきた。
しかし、これは全く事実と異なる。当時朝鮮人たちは自発的意志によりお金を稼ぐため玄界灘を渡ったのであり、就職競争はとても熾烈だった。誰でも玄界灘を渡れることができたのでもなく、就職した後には正常に賃金が支給された。
当時、朝鮮人たちが日本から送金した給与が、朝鮮のインフレ発生の一助になったという理論もある。労働条件なども当時の日本人労働者たちと根本的な差はなく、今の基準から見ても、非人間的な待遇だと言えるようなものではなかったと確認されている。
この間、この国の進歩を売り物にする輩らが映画や大衆媒体に広めてきた「強制徴用労働者」という認識は、徹底した歪曲と虚偽だという事実が、真摯な学問的研究によって暴露されている。国立日帝強制動員歴史館の追悼塔に書かれている強制徴用労働者の写真が最近、替えられたことが端的な証拠だ。年若い生徒らに歪曲された反日種族主義を注入する、教科書のまちがった内容に対する修正作業も推進されている。

2　労働者像設置は最悪の外交破綻を呼び起こす

我が国も加盟している外交関係に関するウィーン協約は、外国公館の前に物議を醸すような造形物を設置することを禁じている。もし、ベトナムの韓国大使館の前にベトナム戦争当時の韓国軍による虐殺の場面を描く彫刻像を設置するなら、それは韓国・ベトナム関係を終わらせようという宣言と変わりがない。韓日関係は韓国・ベトナム関係よりも、東北アジアの国際秩序においてより一層比重が大きい。

慰安婦像および労務動員労働者像とともに、最近韓国の裁判所による強制徴用賠償判決と韓国国内に進出している日本企業に対する差し押さえ推進などは、大韓民国の近代化と経済発展に決定的に寄与した韓日親善を根底から脅かしている。これは1965年の韓日国交正常化で合意された韓日基本条約の精神に正面から違反する、文在寅政権の愚かで無責任な外交的な自害行為だ。

このような愚かな外交的な自害と韓日親善関係の破壊策動は、大韓民国の生存と繁栄の前提条件である韓日親善交流協力を根底から崩壊させようとする勢力の、組織的な陰謀ではないかと疑わせる。

いま急がれるのは、強制徴用労働者像や慰安婦少女像を設置することではなく、韓日親善交流協力を毀損しようという、この執拗で計画的な試みの本当の意図が何なのか、その背後にどのような勢力がいるのかを徹底的に究明し、その責任を問うことだ。韓日関係が動揺すれば、韓米関係が危うくなる。韓日、韓米関係が危うくなることを、のどを飯が通らないほどに切実に願っている者らが誰なのか、すべての国民がしっかりと直視しなければならない時だ。

3　労働者像設置は無法地帯の世の中を予告している

労働者像設置を主導している民労総と左派陣営は、不法暴力行為を主導するヤクザ集団のようなやりかたをどんどん露骨化している。労使協議の相手である企業体の役員を生命が脅かされる程に暴行し、警察の捜査もやりたい放題に無視する。裁判所や行政官庁に侵入し、公権力を踏みにじり、警察のほほをぶんなぐる。労働者像を撤去した釜山市長を脅迫した末、降伏宣言を引き出した。

この者らは、大韓民国の法律と国民の上に君臨する占領軍なのか。大韓民国の国民の血と汗である税金を、自分らのポケットのカネのように自由に出して使える新しい両班、貴族階級なのか。誰が彼らに大韓民国の法律を無視し、ごく少数の貴族労働者らのために国家と国民、法律を踏みつける権利を与えたのか。

この者たちによる、国民の歪曲された反日感情と被害意識を扇動して自分たちの不法暴力行為を正当化し美化しようとする試みが、強制徴用労働者像に集約されている。親日清算だけをかかげれば、あらゆるヤクザのような行いが全部正当化され、進歩という名分を得ることができるという計算が適用されている。

この者らが強調する「労働者が主人になる世の中」とは、まさに労働者の自発性や福祉を徹底的に無視し、世襲貴族らによって強制徴用が日常化される世の中だという事実が、

北の金氏朝鮮の実情を通じて明らかになっている。

我々は次のように要求する

1　民主と進歩、市民の名をかかげて歴史を歪曲する民労総と市民団体などは、強制徴用労働者像の設置をすぐに取り消せ。
2　文在寅政権と執権与党は、韓日関係を壊して金氏朝鮮の利益のために服務する愚かな行動をすぐに中断し、厳重な公権力行使を通じて労働者像設置を根本から遮断せよ。
3　理性と良識を持つこの地のすべての知識人と市民活動家たちは、この問題が韓半島の平和と国益の擁護のために絶対的に重要な命題だという事実を認識し、積極的に反対活動に参加せよ。
4　文在寅政権は、韓日基本条約の効力を源泉的に否定する外交破綻と、韓日親善、韓米日友好関係の破壊を通じて金氏朝鮮の赤化策動に服務する策動をすぐに中断し、伝統的な友好関係を回復せよ。

　このような我々の要求が実現されるときまで、我々は最後までたたかう。

2019年6月5日
慰安婦と労務動員労働者銅像設置に反対する会
反日民族主義に反対する会
韓国近現代史研究会
国史教科書研究所

＜訳注＞

1　韓国国定小学校教科書などに掲載されていたガリガリに痩せた労働者の写真は、1926年に旭川新聞が道路建設現場での虐待致死事件を報じた際に掲載された日本人のものだった（産経新聞2019年3月20日）。
2　1965年に朝鮮総連傘下の「在日本朝鮮文学芸術家同盟」が作成した映画で、スタッフが「お母さんに会いたい、腹が減ったよ、故郷に帰りたい」とするハングルを演出のため筑豊炭鉱の壁に書き込んだ。それを韓国の国立博物館などが実物として展示している（西日本新聞2001年1月3日）

● 金弁護士の勇気

　私は金弁護士が読み上げる声明を聞きながら、感動で胸があふれた。一番心を揺さぶられたのは、「3　労働者像設置は無法地帯の世の中を予告している」の部分だ。ここで声明は、白昼堂々と集団暴力を振るっている過激な民労総を名指しで激しく批判している。「親日清算だけをかかげれば、あらゆるヤクザのような行いが全部正当化され（る）」とまで言って、民労総の暴力行為をヤクザのような行いと断じている。これを公開の席で実名と顔をさらして読み上げる勇気を、金弁護士は持っているのだ。

　民労総や過激な左派勢力から暴力的妨害を受ける心配はないのかと、私は李博士や金

弁護士に尋ねた。彼らは笑いながら「ある面で妨害を待っている。いまのところ無視されていて悔しい」と語った。

● 日本との関係を問う記者

声明朗読の後、韓国記者の質問を受けた。

「今後日本政府とどのような緊密な関係を持つのか。国内だけでやるのではなく、これは日本政府が知らなければならないものだと考えるが、対外的に日本に対してどのような広報をするのか」という質問があった。

それに対して李博士は、「日本を相手にして私たちが特別に活動する理由はないと考えます。しかし、この問題について関心を持っている日本の言論社が積極的に取材し、このような韓国市民の動きがあるという事実を日本に知らせることによって、今のもう一度両国の国交正常化が必要なくらいの状況を抜け出すのに両国政府が力を尽くせるように、そのような役割を日本政府もすることができるように期待している状況です」と答えた。日本人が喜ぶことを日本に向けて発信することが目的ではなく、あくまでも韓国内の反日民族主義と戦うという覚悟がよくわかった。

● 左派運動家が「民族主義は毒薬」と演説

次に、参加者からの連帯のあいさつがあった。まず、70年代に民主化運動に参加し、その後労働運動に従事してきた著名な左派運動家の朱デファン氏が、マイクの前に立ってこう話した。

「自分は左派陣営に属する人間だ。だがどの陣営に属するかではなく、良心を持つ一人の人間として、歪曲があまりにひどく、事実に根拠しない話があまりにも多いので出てきた。民族主義は知性を麻痺させる毒薬だ。強いアルコール、麻薬と似ていて、その瞬間はとても気分がよいが、頻繁にやると中毒になる。知性が麻痺する。いま、我が国の国民は昔に比べてはるかに多くの知識を持っているし、はるかに多い情報を持っているにもかかわらず、どうしてどんどん馬鹿になっていくのか。これはみな民族主義という毒薬の中毒になっているからだ。私は民族主義を相手に戦ってきた。民主化運動をしたときも労働運動をしたときもそうでした。いま、我が国の民主化運動、労働運動はなぜこれほど堕落したか。民族主義に汚染されたからだ。だから、いまこそ反日民族主義を止めるときになったと考える。真実を歪曲することは、これ以上してはならない。左派でも右派でもよい、進歩でも保守でもよいが、真実を歪曲してはならない」

なお、朱デファン氏は、文在寅政権を既得権層の政権だと次のように激しく批判している。「文在寅政権は疎外されている下層労働者を代弁する左派政権ではない。彼らは大企業労組、公務員労組、教員労組、大学教授ら既得権層を代弁している政府だ。既得権層はよく組織されており、彼らが社会を支配する様子は朝鮮時代の両班と似ている。彼らは名分と正義まで独占している。文化権力も握っている」（週刊朝鮮ネット版2017年8月13日）

● 保守論客、主催団体代表のあいさつ

次に朴槿恵弾劾の契機となったマスコミの誤報と戦って、名誉毀損で逮捕され、最近保釈が認められた保守派の若手論客の辺熙宰・メディアウォッチ顧問が指名され、「獄中で李宇衍博士の活動をしっかり読んだ。自由民主主義体制が維持される最も重要な基本は真実だ。真実が崩壊すれば法治が崩壊し、法治が崩壊すれば自由民主主義が崩壊する。私の事件も同じだ」と語った。

その頃、通りかかった男性が大きな声を上げて集会に抗議してきた。それに対して何人かの参加者が反論し、路上で論争となった。その声を横で聞きながら集会は続いた。次に主催団体の一つである国史教科書研究所の金ビョンホン所長が、朝鮮人は日本に連行されたのではなく金儲けのために自分から渡っていった、という内容を数字やエピソードを使って具体的に説明し、「左派による歴史歪曲をただされなければならない」と語った。

● 歴史戦争を戦う韓国近現代史研究会

次に、やはり主催団体の韓国近現代史研究会の孫ギホ会長が、「解放から朝鮮戦争までを武力戦争期、その後80年代までをイデオロギー戦争期、90年代初めから現在までを歴史戦争期とみている。三つの時期すべてで左派が挑発し、右派は必死で対応した。自由民主主義か、従北社会主義あるいは全体主義の間の国家の死活をかけた内戦状態、体制戦争とみている。自由民主主義と市場経済を絶対に守り抜きましょう」と語った。

同研究会の綱領は以下の５項目だ。これを読むと、良識的な保守派の集まりであることがよくわかる。

1　我々は自由民主主義と市場経済を信条として、民族以前に、国家に優先的価値をおく。
2　旧韓末、大韓帝国滅亡、我々が犯した誤りをまず露呈させることをためらわず、告白することができる勇気を持つ。
3　日帝強占期、帝国主義日本から我々が得たものと奪われたものをきちんと明らかにする。
4　歴史の真実を反国家的イデオロギーの物差しで歪曲し、政治宣伝の道具にしようとするすべての左派的認識を排撃し、我々の学習を盗用して反国家的、従北的言辞の根拠にすることを排撃する。
5　我々の学習が、我々の信条を基盤とする誇らしい大韓民国の未来価値を担保することに寄与することを信じる。

● 主思派は退歩勢力

次にまた、左派労働運動家崔ジェギ氏が指名された。

「労働運動を30年した。この間、主思派と何回も争った。それで彼らの属性をよく知っている。進歩勢力、進歩政党と言いますが、進歩とは何か。私が進歩を自称する人たちにきいても分からない。私は進歩をこう見る。人間の自由と人間の権利を拡大し、拡充する

方向が進歩だ。その反対の方向は退歩だ。北朝鮮の金正恩政権を支持するのは退歩勢力だ。進歩勢力ではない。我々が日本や米国と親しくしないで、中国や北朝鮮と親しくしたら、進歩なのか。退歩だと思う。正しい精神で生きるのは困難だが、正しく生きようとするなら、退歩勢力を整理しなければならない。」

● 大物左派リーダー参加の意味

先述の通り、集会の司会はやはり著名な左派運動家の朱ドンシク氏だった。韓国の左派運動は、大きく分けて主思派と純粋マルクス・レーニン主義派に分かれる。前者は北朝鮮を支持し、民族主義を強調する。後者は北朝鮮に対して是々非々の立場や批判的な立場をとり、どちらかといえば民族より階級を重視する。反日民族主義に反対する声を上げる左派は、後者に限られている。また、後者は労働者像設置の主体である民労総を労働貴族だとして、激しく批判している。民労総や全教組などはこの間の争議の結果、信じられないほどの高賃金を獲得しているが、そのしわよせにより中小企業労働者や非正規労働者らは苦しい生活を強要されているからだ。

しかし、この日の集会に左派の著名な運動家が積極的に参加したことは、反日民族主義に反対する運動が今後、左右を問わず、嘘をきらう良識派の中で多くの支持者を得る可能性を示している。その意味で、韓国の政治思想史的にも大きな転換点となる集会だった。

● 太極旗保守の日本擁護演説

次に、朴槿恵弾劾に反対して街頭に出て、今も毎週土曜日にソウル中心部で太極旗をかかげてでもデモをしている、保守派活動家のリーダー趙ヨングン氏が指名された。

「1965年韓日協定によって日本から８億ドル、我が国政府予算の４倍のすごいお金を日本から持って来て、大韓民国は京釜高速道路を敷き、浦項製鉄を作り、重化学工業を育成して発展した。だが左派らは、その韓日協定を拙速協定だ、屈辱協定だと言うのだが、私は韓日協定は偉大な協定であり、大韓民国がグローバル国家になるためのものだった。韓米日三角同盟に向かうためのものだった。

その意味で、ここに慰安婦像や労働者像に反対する明らかな理由は、あのとき国家次元で８億ドルを通じて、無償３億、有償2億、民間借款３億ドルを一括して交渉したのに、私たちがまた要求して、謝罪しても受け入れないとまた謝罪しろという、あたかもドイツがユダヤ人にしたような世界的な恐ろしい蛮行のように考えて、限りなくまた謝罪しろということは決して正しくない」と熱弁を振るった。街頭デモを続ける保守活動家が1965年の日本からの資金について、正確な事実を演説の中で、自分の言葉で語っている。これもこれまでには見られなかった光景だ。

そこで左派の司会者がこう付け加えた。「謝罪の話が出たから言いますが、驚いたことになんと日本は、公式な謝罪だけで37回したというのです。天皇、総理、大臣たちです。日本を代表する人たちが37回も謝ったのに、韓国では一度も謝罪していないように主張しています。謝罪すれば、心からのものでないという。誰がそれを計るのですか。言いが

かりをつけて、永遠に続けようとしている」

● 教育正常化を要求する母が、「慰安婦像は恥ずかしい」

最後に、左派教員労組である全教組と戦っている保守派父母団体「公教育を救う学父母連合」の李ギョンジャ代表が挙手して、マイクを握った。

「私たち父母は、間違っている歴史教育のためにまともな歴史教科書を作ってほしいと叫んできた。そのため国定歴史教科書に期待していた。あのようによく作られた国定歴史教科書が完全に廃棄されるのを見て、私たちの子供らの歴史教育をどうするのかと怒りがわいている。

いつまで私たちは、反日を叫ぶのか、親日派はだめだというのか。慰安婦像設置の反対の先頭に立ちたかったが、力が弱くてできなかった。このように歴史を勉強した方々が、この運動の先頭に立ってくれて本当に感謝する。韓日合邦して国を奪われたとき、一番被害を受けたのは女性と子供だった。その代表的なものが慰安婦だった。とても胸が痛い話だが、先ほど話されたようにすでに日本から賠償を受け取った。いま我が国がこれだけ豊かになったのだから、何人かしか残っていないおばあさんたちを我が国が十分にお世話して、不自由なく一生を終えていただけるほどになっている。いつまで私たちが日本にカネをくれと要求するのか。恥ずかしくないのか。

私は梨泰院に住んでいるが、外国人も多いところに少し前、慰安婦像ができて恥ずかしくて壊してしまうことができないかと思っているくらいなのに、それだけでは足りないと、労働者像を龍山にまた立て、全国に立てるという。本当に止めさせなければならない。

この間、左派の民族問題研究所などが歴史を歪曲してきたが、ここに出てきた近現代史研究会や国史教科書研究所の方々こそが本当の歴史学者だ。左派学者が我が国歴史を歪曲するなら、そのような人は、知識人、教授でもない悪人たちだ。そのような人らの教科書を、これ以上選択してはならない。

今日ここに来て下さった本当の学者が団結して正しい歴史をつくり、これ以上、慰安婦像、労働者像が立たないように先頭に立ってくれれば、多くの国民が支持する。現在広報が不足しているが、遠くない将来に多くの人たちが合流するから、疲れてしまわず最後まで先頭に立って戦ってほしい」

● 国連まで行って訴える挺対協

個人ユーチューブニュースのために現場で取材していた、左派活動家の崔ドキョウ氏が指名された。

「いま、韓国全土に多数の労働者像が立てられている。小学校、中学校、高校にはミニ銅像が立てられている。それを見て回ったが、モデルは北海道の日本人犯罪被害者だ。全部詐欺だ。なぜ詐欺が通じるか。

挺対協で慰安婦運動をしていた梨花女子大の教授が国連人権委員会に行って委員とな

り、20万人の少女が連行されたと英語で宣伝した。フェミニズムが全世界を席巻している中、これはひどいと受け入れられた。

私は進歩派だが、詐欺は許せない。左派だけでなく保守も悪い。私有財産が奪われる危険があるのに、保守がこのようなところに出てこないからだ。このままでは国が滅びる」

司会者が「動員労働者らは今度カネをもらえば4回目だ。1回目は労働して通常の賃金をもらった。2回目は朴正熙政権が65年の協定に基づき補償をした。3回目は盧武鉉政権が慰労金という名目でカネを出した。今回4回目をもらうなら、どういう名目になるのか」と話して、集会を締めくくった。

● 特別な万歳三唱で集会を終える

最後に、左派司会者の発声で参加者全員が起立して「大韓民国万歳、韓日親善万歳、世界最悪の人権抹殺犯罪集団の金氏朝鮮、白頭のぶた金正恩政権とそれに服務協力する文在寅政権打倒万歳」で、集会が終わった。

インフォメーション

歴史認識問題研究会主催・日韓国際シンポジウム
韓国「徴用工」問題の真実

日韓友好を毀損する韓国大法院判決から１年後となる2019年10月に、日本と韓国の研究者たちが一堂に会して、歴史の真実を伝えます。

日本からは、当研究会より西岡力会長が登壇。

韓国からは、本年6月5日にソウルにて慰安婦像・徴用工像設置反対の街頭集会を主導した、李宇衍博士と金基洙弁護士をお招きします。

李博士は7月2日、国連人権理事会で戦時労働者は奴隷のように連行されておらず、待遇も日本人と同じだったと陳述し、金弁護士は韓国内で大法院判決を批判する言論活動を展開しています。

福岡・大阪・東京の三地区にて、日韓国際シンポジウムを開催致します。奮ってのご参加を、お待ち申し上げております。

登壇者：李 宇 衍（落星台経済研究所研究委員）
　　金 基 洙（弁護士）
　　西岡　力（歴史認識問題研究会会長）
司会者：高橋史朗（歴史認識問題研究会副会長）

日　時：2019年10月4日（金）　18：30～20：30（開場18：00）
場　所：福岡県中小企業振興センター301会議室
住　所：福岡市博多区吉塚本町9−15
最寄駅：ＪＲ吉塚駅東口から徒歩1分

日　時：2019年10月5日（土）　14：00～17：00（開場13：30）
場　所：高槻現代劇場305集会室
住　所：大阪府高槻市野見町2−33
最寄駅：ＪＲ京都線「高槻駅」から徒歩12分
　　阪急京都線「高槻市駅」から徒歩5分

日　時：2019年10月6日（日）　14：00～17：00（開場13：30）
場　所：星陵会館
住　所：東京都千代田区永田町2−16−2
最寄駅：南北線、有楽町線、半蔵門線「永田町駅」6番出口から徒歩3分

資料代：１千円（各会場共通）、事前予約は不要です。
連絡先：090-7982-8670（長谷、各会場共通）、090-8579-0056（吉田、大阪会場のみ）